【授業科目】老年看護学演習Ⅰ（高齢者への介護介助）　Advanced Seminar of Gerontological Nursing Ⅰ

担　当　教　員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	オフィスアワー
三好 陽子	１年次 前　期	選　択	２	６０	演　習	巻末 掲載

授業概要 （内容と進め方） 及び 課題に対する ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	健康な高齢者への看護介入と、健康障害をもつ高齢者への看護介入を探究するために、実際の看護実践の場で面接や参加観察などを実施しレポートを作成する。 また、看護介入の実施についてプレゼンテーションを行い課題を検討することにより、高齢者への看護介入からみた老年看護学の独自性について考える機会とする。 形式は演習によりレポートを作成し、学生のプレゼンテーションを取り入れる。 授業は、実務家教員（三好）が進める。 課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法/プレゼンテーションについては授業内でコメントする。また、提出されたレポートについてはコメントをつけて返却する。
授業の 位置づけ	本大学院のディプロマ・ポリシー①③④の達成に寄与している。
到達目標 （履修者が到達すべき目標）	①老年看護の実践の場の特徴について説明できる。 ②高齢者への看護介入の特徴について説明できる。 ③自己のテーマを設定し、看護介入の実践について計画を立案することができる。 ④看護介入の結果を発表し、分析の上、課題を述べることができる。 ⑤看護介入を通して、老年看護学の独自性について自己の見解を述べることができる。
時間外学習に 必要な 内容・時間	紹介した文献や配布資料は、よく読んで、授業内容の理解や授業での意見交換に生かす（２時間）。 課題に関しては、自らも文献検索・検討を行いプレゼンテーションやレポート作成に生かす（２時間）。 ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位１５回科目の場合：予習+復習４時間／1回）（１単位１５回科目の場合：予習+復習１時間／１回）（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。
授業計画	1～2　老年看護の実践の場：医療機関、福祉施設の特徴と現状 3～5　高齢者への看護介入の特徴 6～7　看護介入計画の立案（１）：研究課題の明確化・設定 8～11　看護介入計画の立案（２）：目的、対象、手続き、方法の選択 12～19　実践の場における看護介入 20～24　看護介入の分析・評価：レポート作成 25～27　看護介入の成果と課題：プレゼンテーション 28～29　高齢者への看護介入からみた老年看護学の独自性の検討 30　まとめ 全て 三好
評価方法 評価基準	課題に対するプレゼンテーション（４０％）、レポート（６０％）などによって総合的に評価する。
教科書	なし　　参考書等：配付資料 参考文献についてはその都度提示する。